

A:たいへんよい B:よい C:一部検討を要する D:改善を要する

評価項目	取り組み状況	評価
保育方針 教育・保育目標 年間計画・指導計画 園として特に配慮すべき事項 ＊教育・保育課程 ＊教育環境の整備 ＊保育の記録 ＊園児に合わせた環境への配慮	・こども園3年目となり、ようやく軌道に乗ってはきたが、コロナ禍による様々な制限は続き、特に今まで全園児で行っていた行事などもクラス単位、又は座席（指定席）の工夫、保護者参加の行事についても人数制限を行うなど、昨年度以上に改善しながら進めていった。	B
健康支援	・昨年度の感染予防対策をより強化し検温の徹底、保護者への体調管理の呼びかけを行った。また、体調不良時は早急に連絡を入れるなどして対応した。	B
安全管理	・コロナ感染予防対策として、子ども、保護者、職員全ての手指消毒の徹底と玩具、手の触れる箇所の消毒を強化した。 ・毎月の避難訓練は予定通り行い、火災、地震、津波による避難経路の確認は予定通り行うことが出来た。	B
食育の推進	・コロナ禍のため、子ども自ら調理することは出来なかったが、野菜の栽培、収穫は例年と変わらず行うことができた。収穫した野菜を使い調理済みのものを食することができて良かった。	B
子育て支援 ＊入園している子どもの保護者 ＊地域の子育て家庭 ＊地域との連携	・子育て支援「にじいろクラブ」の活動を年3回予定していたが、緊急事態宣言等で全て中止となった。 ・個人懇談は希望者のみ行い、保護者からの家での様子を聞く・保育者から園での様子を伝えるなど、情報を共有することができた。	C
教育・保育時間	・昨年度に引き続き教育保育環境の工夫や3，4，5歳児クラスのマスク着用、可能な範囲、クラス単位で活動するなどの対応を日々取り入れた。	B
子ども発達支援	・特に年長児の情緒面が不安定など、配慮が必要な子どもが数名いたため、担任一人での対応が難しい時は他の保育者が補助に入る。	B
職員の資質の向上	・園外研修はリモート配信など、対面以外で受講することができた。また、研修による新たな情報を習得することができ、保育・教育で生かすことができていた。	B

幼保小連携	・コロナ禍が続いているため、姉妹園こすもす保育園、小・中学校、地域の高齢者施設との交流は全て中止となった。	C
苦情解決体制	・今年度はコロナ感染による休園に対する保護者からの苦情はあったが保健所、または未来局からの指示に従い対応していった。休園期間、濃厚接触者の特定が難しかったが、職員間で周知し保護者一人ひとりに対応した。保護者へは配信アプリきっずノートにて状況を共有し、協力を仰いだ。	B

今後取り組むべき課題(重点的に取り組む課題)

課題	具体的な取り組み方法
運動面の基礎を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ・転びやすく、転んだ時に手をつかずに頭を打つなどが多くなっている。 ・大きな怪我に繋がらないよう柔軟性・体幹を養う運動を取り入れながら、運動の楽しさを伝えていく。
最後までやろうとする責任感を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ・物事に取り組む前に、諦めずに最後までやる姿勢を保育者と共に学んでいき、同時に達成感を味わえるようにしていく。